

## 実践記録

---

# 初級中国語授業へのブレンド型学習の導入とその成果

## Introduction of Blended Learning for Elementary Chinese Classes and Its Findings

渡辺 昭太（法政大学経済学部兼任講師）

### キーワード

ブレンド型学習、実質化、eラーニング、外国語教育、初級中国語

### 要旨

ブレンド型学習の実質化のためには、eラーニングを受講生が継続的に行う必要があるが、実際にはそれが難しいことが指摘されている。筆者は初級中国語の授業でブレンド型学習を実施し、いくつかの試みを通じてeラーニングの実施率を向上させることができた。本稿では筆者が実践しているブレンド型学習を紹介するとともに、受講生に対して行ったアンケート調査の結果を分析し、ブレンド型学習の実質化を促す要因を考察する。

### 1. はじめに

近年、より実用的なコミュニケーション能力の育成が外国語教育に求められるようになっていく。従来の外国語教育は、発音や文法などの言語知識の理解に重点が置かれていたが、近年はそれらの言語知識を実際の社会活動に応用することのできる総合的コミュニケーション能力を備えた人材の育成が求められるようになってきた。そのため、今後は言語知識の理解にとどまらず、コミュニケーション活動<sup>1)</sup>のような実践的な言語能力を養うためのトレーニングを盛り込んだ授業づくりがより重要になってくるだろう。しかしながら、中国語は英語とは異なり、初習者が多く、発音や文法の学習に授業時間の多くを割かなければならない。そのため、実践的な言語能力を養うためのトレーニングを行う時間を十分に確保するのが難しい場合も多い。また、授業コマ数の増加も容易ではないため、「授業時間数を増やすことなく、いかに教育内容の充実を図るか」が大きな課題となっている。

この相矛盾する要求を実現する教授法として注目されているのがブレンド型学習（blended learning）である。ブレンド型学習には、広義、狭義様々な定義があるが<sup>2)</sup>、本稿では教室での対面学習とeラーニングによる自宅学習を組み合わせた教授法を指すことにする。ブレンド型学習は、授業時間数を増やすことなく教育効果を向上させることを可能にする教授法である。外国語学習には、発音や文法などの対面学習やコミュニケーション活動のように、教室での同期型の集合学習によってより効果があがるものと、リスニングや学習した文を暗記、定着させるための翻訳練習など、自宅での非同期型の個別学習による代替が可能なものがあるが、後者をeラーニング化することで、授業に時間的ゆとりを生み出し、教室でしか行うことができない前者のような学習内容により多くの時間を割くことが可能になる。しかしながら、ブレンド型学習が有効に機能するためには、eラーニングによる自宅学習を受講生全員が継続的に行うことが重要になる。ところが実際は、eラーニング

を導入しても、受講生がそれを継続的に行わない場合も多く、eラーニングを継続させることの難しさが指摘されている<sup>3)</sup>。

筆者は、2013年度より大学1年生向けの初級中国語の授業にブレンド型学習を導入し、受講生のeラーニングによる自宅学習の実施状況を継続的に観察してきたが、2014年度に筆者が担当する2大学3学部計4クラスで実施率を向上させ、ブレンド型学習の実質化に一定の効果を上げていることを確認した。

本報告では、はじめに筆者が実践しているブレンド型学習の概要を紹介し、受講生に対して行ったアンケート調査の結果を分析しつつ、ブレンド型学習の実質化を促した要因について考察してみたい。

## 2. 初級中国語授業におけるブレンド型学習の実施概要

### 2.1 ブレンド型学習の概要と学習サイクル

本節では、筆者が実施しているブレンド型学習の概要について紹介する。筆者は、2013年度から初級中国語の授業にブレンド型学習を導入した。その大学及びクラスは、次の通りである。2013年度は、法政大学経済学部（3クラス計102名）、他大学の人文学部（1クラス29名）、家政学部（1クラス9名）の2大学3学部5クラス（計140名）で実施した。2014年度は、法政大学経済学部（2クラス計59名）、他大学の人文学部（1クラス20名）、家政学部（1クラス22名）の2大学3学部4クラス（計101名）で実施した<sup>4)</sup>。授業時間数は、法政大学経済学部は週2コマで、2名の教員が1冊のテキストをリレー式に進めている。一方、他大学は週1コマで、担当教員は1名である。

教科書は、いずれも『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）を使用している。eラーニングは、このテキストに準拠して開発されたもので、「デジタル教科書」と「e宿題・

eテスト」から構成されている。「デジタル教科書」は、テキストの内容（主に本文と新出単語が掲載されているページ）をデジタル化したもので、掲載されている各々の文や単語をクリックすると、音声を聞くことができる。「e宿題・eテスト」は、授業内容を復習するためのリスニングトレーニングと翻訳トレーニング、それに後述する小テストをオンライン上で提供している。

ブレンド型学習におけるeラーニングには、予習型と復習型の二つの活用方法があるが、筆者の担当する授業では復習型として活用している<sup>5)</sup>。実際の学習は、概ね次のようなサイクルで実施される。受講生は、まず教室で授業を受けた後、自宅でeラーニングによる宿題（e宿題）を行い、学習内容の定着を図る。そして、次の授業の最初に、前回の学習内容の定着度を測る小テストを行う。即ち、[授業→e宿題による復習→小テスト→…]というサイクルで毎回の学習を進めていく。

### 2.2 毎回の授業の進め方

毎回の授業は、概ね次のような手順で行われる。

	授業内容	時間
①	小テスト	約20分
②	テキストの学習	約50分
③	問題演習・個別指導・コミュニケーション活動など	約20分

まず、授業の始めに復習の小テスト<sup>6)</sup>を行う。小テストは、「1. 単語の聞き取り」（4問計20点）、「2. 短文の聞き取り」（2問計30点）、「3. 短文の中国語訳」（2問計30点）、「4. e宿題の実施状況」（4種類計20点）の合計100点満点で構成される。毎回、小テストを実施するのには、次のようなねらいとメリットがある。まず、学習内容をこまめに復習することで、既習事項を少しずつ着実に定着させることができるとともに、受講生に学習習慣を付けさせることができる。同時に、教員は、受講生の学習状況を継

統的に観察することができるため、受講生が十分に理解できていない箇所や、間違いの多い箇所などを早期に発見でき、必要に応じて復習を行うなど、早めの対策をとることが可能になる。また、副次的ではあるが、毎回授業の最初に小テストを行うことで、遅刻や欠席を減らすといった効果もある。

小テストが終わると、テキストの学習に移る。『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』は、1回の授業で1課を終えられる構成になっており、基本的に毎回1課ずつ学習を進める。テキストの学習では、単語の意味の確認、本文の意味の確認、文法事項の説明などを行う。

テキストの学習が終わると、問題演習・個別指導・コミュニケーション活動などの各種活動に移る。問題演習では、その課で学習した内容を応用した作文練習などを行う。CALL教室を利用しているクラスでは、授業内での個別指導の際に、他の受講生が暇を持て余すことがないよう、問題演習の代わりにe宿題の自習をさせることもある<sup>7)</sup>。コミュニケーション活動では、新たに学んだ単語や文法事項、および既習の表現を応用し、学生同士でコミュニケーションを行わせる。たとえば、“你的生日是几月几号？（あなたの誕生日は何月何日ですか）”のような表現を学んだ場合、それを応用して、「クラスメートの誕生日を中国語で尋ね、発表する」といった活動を行う。これにより、実践的なコミュニケーション能力を養うとともに、受講生同士が親しくなるためのきっかけともしている。

### 2.3 自宅学習（e宿題）の進め方

授業後、学習内容の定着を図るため、受講生は、eラーニングによる宿題を行う。まず「デジタル教科書」を利用して音声を聞き、学習内容を復習した後、「e宿題」を利用してトレーニングを行う。「e宿題」には、「単語の聞き取り」、「単語の中国語訳」、「短文の聞き取り」、「短文の中国語訳」の4つのトレーニングが用意されている。

「単語の聞き取り」および「短文の聞き取り」は、再生された中国語の音声を聞き取り、画面上の解答欄に中国語を入力し、正誤判定を行う。「単語の中国語訳」および「短文の中国語訳」は、画面上に日本語で表示された単語または短文を中国語で入力し、正誤判定を行う。4つのトレーニングは、出題される各問題を全て3回正解することで「完了」となる。受講生は、4つのトレーニングを全て「完了」にすることで、その回のe宿題は完了となる。たとえば、ある課で単語を10個、文を6個学習したとすると、「単語の聞き取り」と「単語の中国語訳」はそれぞれ10単語×3回=30問、「短文の聞き取り」と「短文の中国語訳」はそれぞれ6文×3回=18問となり、延べ96問正解する必要がある。さらに、学習内容の定着度を定期的にチェックするため、最終正解日時から1か月経過すると、再びその問題が「復習問題」として出題される<sup>8)</sup>。

毎回のe宿題の実施状況は、「学習管理画面」から教員が確認できるようになっており、小テストの点数に反映させている。小テストは、100点満点のうち、20点分をe宿題の実施状況に充てている。4つのトレーニングをそれぞれ各5点とし、4つとも完了していれば20点、3つ完了していれば15点と、5点ずつ小テストの得点に反映させる。受講生の日々の努力を小テストの点数に反映させることにより、継続的な学習習慣を身に付けられるようにしている。

## 3.e宿題の実施状況とアンケート調査の概要

### 3.1 e宿題の達成率の向上のための試みとその結果

e宿題は、すべての問題を3回正解しなければならないため、受講生は前述の通り相当量の課題に取り組むことになる。e宿題の実施状況が小テストの得点に反映されるとはいえ、長期間継続的に取り組むのは容易なことではな

い。たとえば、2013年度の前期終了段階において、4つのトレーニングをすべて完了できた受講生の割合は、週2コマのクラスでは3クラスの平均が65%、週1コマのクラスでは2クラスの平均が68%であった。これに対し、2014年度は、週2コマのクラスでは2クラスの平均が71%、週1コマのクラスでは2クラスの平均が98%であった<sup>9)</sup>。週2コマのクラスでは6%、週1コマのクラスでは30%増加したことになる。では、なぜ達成率が向上したのであろうか。

e宿題の達成率向上のため、2014年度は以下のような試みを行った。2013年度は、小テストの平均点を30%、期末試験の得点を70%として成績評価を行ったが、外国語の習得のためには継続的な学習が重要であることをふまえ、2014年度は、法政大学経済学部2クラスでは期末試験を行わず、小テストの平均点のみで成績評価を行うことにした。また、他大学の2クラスでは、小テストの平均点を50%、期末試験の得点を50%として成績評価を行うことにした<sup>10)</sup>。e宿題の実施状況が得点に反映される小テスト

をより重視したことが、e宿題の達成率向上に寄与しているのか、また、他にもe宿題を継続できた要因があるのかを探るため、受講生に対してアンケート調査を行った。

### 3.2 アンケート調査の実施概要

アンケート調査は、2014年7月に実施した。授業時にアンケート用紙を配布し、授業後に各自が記入した後、翌週および翌々週の授業時に回収した。

e宿題の継続可能性や、ブレンド型学習に対する意識は、中国語への興味・関心やe宿題の量など、様々な要因が関与していることが予想される。そこで、アンケートでは、それらをできるだけ広範囲にカバーできるような設問を設けた。また、ある程度の傾向と同時に幅広い回答を得られるよう、選択式の設問と自由記述式の設問の両方を設けた。アンケートの具体的な内容は、資料2のとおりである<sup>11)</sup>。回答者数は、2大学4クラスの受講生計101名のうち、97名であった。

## 4. アンケート調査の結果とその分析

### 4.1 中国語に対する意識の変化

Q1. あなたは、これまでの学習を通じて、中国語に魅力を感じるようになりましたか？

	はい	どちらともいえない	いいえ
2014年7月	80 (83%)	16 (17%)	1 (1%)

参考：2014年4月 はい：62 (64%) どちらともいえない：31 (32%) いいえ4 (4%)

Q1は、中国語に対する意識の変化を問う設問である。

Q1は、授業開始直後の2014年4月にも「あなたは、中国語の学習に魅力を感じますか？」という内容でアンケートを実施しており、参考にその時の結果を挙げた。

2014年4月の段階では、64%の受講生が「はい」、32%の受講生が「どちらともいえない」、4%の受講生が「いいえ」と回答した<sup>12)</sup>。

一方、7月に同じ受講生を対象に行ったアンケートでは、83%の受講生が「はい」と回答しており、中国語に魅力を感じるようになった受講生が19%増加している。「どちらともいえない」、「いいえ」と回答した受講生も依然として存在するものの、その割合は両者を合わせても18%にとどまり、多くの受講生が中国語に魅力を感じるようになったことが分かる。



## 4.2 中国語の習得への期待感の変化

Q2. あなたは、これまでの学習を通じて、中国語を身に付けられると思うようになりましたか？

	はい	どちらともいえない	いいえ
2014年7月	61 (63%)	33 (34%)	3 (3%)

参考：2014年4月 はい：40 (41%) どちらともいえない：55 (57%) いいえ：2 (2%)

Q2は、中国語の習得への期待感の変化を問う設問である。

Q2は、授業開始直後の2014年4月にも「あなたは、中国語を身に付けることができますか？」という内容でアンケートを実施しており、参考にその時の結果を挙げた。

2014年4月の段階では、「はい」と回答した受講生は41%にとどまり、半数以上の受講生が、中国語を習得できるかどうか分からない、あるいは習得できないと思っていたことが分かる。

一方、7月に同じ受講生を対象に行ったアンケートでは、63%の受講生が「はい」と回答し

ており、中国語を身に付けられると思うようになった受講生が22%増加している。「いいえ」と回答した受講生が1名増えてはいるものの、全体からみた場合はその割合はごく僅かであり、中国語の習得に期待を持てるようになった受講生が増えていることが分かる。

後述するように、ブレンド型学習の導入により、受講生の負担は比較的大きいものであるにもかかわらず、「中国語の学習に魅力を感じる」、「中国語を身に付けられると思う」と感じた受講生がそれぞれ2割程度増加している。

## 4.3 e宿題の学習効果についての意識

Q3. e宿題は、あなたの中国語力の向上に役立つと思いますか？

大いに役立つ	ある程度役立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	全く役に立たない
50 (52%)	40 (41%)	7 (7%)	0 (0%)	0 (0%)

Q3は、e宿題の学習効果についての意識に関する設問である。

「大いに役立つ」が52%、「ある程度役に立つ」が41%と、e宿題の学習効果を肯定的にとらえている受講生が全体の9割以上にのぼるこ

とが分かる。「どちらともいえない」と回答した受講生は7%、「あまり役に立たない」、「全く役に立たない」と回答した受講生はおらず、多くの受講生がe宿題は中国語力の向上に役立つと感じていることが分かる。

## 4.4 e宿題にかかった時間

Q4. e宿題には毎回どれくらいの時間がかかりましたか？

	平均学習時間
法政大学 (週2コマ)	1.9時間
他大学 (週1コマ)	1.4時間

Q4は、毎回のe宿題にかかった時間を問う設問である。

週2コマのクラスでは毎回2課分、週1コマ

のクラスでは毎回1課分のe宿題を課しており、1回あたりのe宿題の量はクラスにより異なる。

週2コマのクラスの平均学習時間は1.9時間、

週1コマのクラスは1.4時間であった。両者の学習時間の差が小さいのは、週2コマのクラスが短期間により多くの問題を解くことにより、習熟度が高まった結果であろう。

なお、文部科学省の定める「大学設置基準」では、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とするとされている。筆者の担当する中国語の授業は、法政大学は週2コマ（2名の教員が1コマずつ担当）、他大学は週1コマ（1名の教員が担当）であるが、1コマあたりの単位数は、法政大学、他大学共に半期1単位である。1コマあたりの授業時間は、90分を2時間とし

て計算すると、半期につき「2時間×15回＝30時間」であるため、45時間の学修を構成するには、残りの15時間分を自宅学習等で補う必要がある。したがって、週2コマのクラスは計30時間、週1コマのクラスでは計15時間の自宅学習等が必要になる。上記の通り、週2コマのクラスは毎回平均1.9時間、週1コマのクラスは毎回平均1.4時間の自宅学習が行われており、15回の授業回数を掛けると、それぞれ28.5時間、21時間となり、大学設置基準が求める「授業時間外に必要な学修等」の時間をほぼ満たしていることが確認できる。

#### 4.5 e宿題の量に関する意識

Q5. e宿題の量についてどう思いますか？

	多すぎる	やや多い	ちょうどよい	やや少ない	少なすぎる
法政大学 (週2コマ)	15 (27%)	31 (56%)	9 (16%)	0 (0%)	0 (0%)
他大学 (週1コマ)	3 (7%)	27 (64%)	12 (29%)	0 (0%)	0 (0%)

Q5は、e宿題の量に関する意識を問う設問である。

週2コマのクラスでは、「多すぎる」が27%、「やや多い」が56%であり、「ちょうどよい」と回答した受講生も16%いたものの、受講生の8割以上がe宿題の負担が大きいと感じていることが分かる。週1コマのクラスでは、「多すぎる」が7%、「やや多い」が64%であり、「ちょうどよい」と回答した受講生も29%いたものの、受講生の7割以上がe宿題の負担が大

きいと感じていることが分かる。

前述の通り、ブレンド型学習の導入により、受講生の負担は増えてはいるものの、「中国語の学習に魅力を感じる」、「中国語を身に付けられると思う」と感じている受講生が増加していることも事実であり、e宿題の負担とその効果のバランスをいかに取るかが課題である。現在、受講生の意見を反映して復習問題を減らし、それが受講生の負担感にどのような影響を与えるかを観察中である。

#### 4.6 毎回のe宿題の実施状況

Q6. あなたは、今までのe宿題（4種類のトレーニング）をどの程度完了することができましたか？

	法政大学（週2コマ）	他大学（週1コマ）
ほぼ毎回完了できた	38 (69%)	36 (86%)
全回数の四分の三程度完了できた	5 (9%)	2 (5%)
全回数の半分程度完了できた	8 (15%)	3 (7%)
全回数の四分の一程度しか完了できなかった	1 (2%)	0 (0%)
ほとんど全回完了できなかった	3 (5%)	1 (2%)

Q6は、毎回のe宿題の実施状況に関する設問である。

週2コマのクラスでは、「ほぼ毎回完了できた」が69%であり、週1コマのクラスでは、「ほぼ毎回完了できた」が86%であった。前述

の、前期終了段階での達成率（週2コマのクラスが71%、週1コマのクラスが98%）だけでなく、毎回着実にe宿題に取り組んでいた学生もかなりの割合を占めていたことが分かる<sup>13)</sup>。

#### 4.7 e宿題を継続できた理由

Q7. 「ほぼ毎回完了できた」、「全回数の四分の三程度完了できた」を選択した人にお聞きします。  
あなたがe宿題を継続できた理由は何だと思いますか（複数回答可）。

	法政大学(週2コマ)	他大学(週1コマ)
e宿題の量が適切だから	2	6
小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点を占めるから	41	34
毎回授業の内容を復習することで、中国語力を向上させたいから	15	18
授業用ホームページやメールを通じて教員からの定期的な連絡があったから	6	8
パソコンでのリスニング練習に興味を持てるから	2	2
パソコンでの作文練習に興味を持てるから	3	0
もともと外国語のリスニングや作文に興味があるから	1	0

Q7は、e宿題を継続できた理由を問う設問である<sup>14)</sup>。

週2コマのクラスも週1コマのクラスも、「小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点を占めるから」が最も多かった。Q6で、e宿題を「ほぼ毎回完了できた」または「全回数の四分の三程度完了できた」を選択したのは二校合計81名であるが、その中の75名(93%)がこの回答を選択している。3.1で述べたように、2014年度から毎回の小テストを重視した成績評価を行っているが、「小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点を占める」ことが、e宿題の継続可能性を高めていることが確認できる。

一方、「毎回授業の内容を復習することで、中国語力を向上させたいから」という回答も33

名(41%)が選択している。中国語を身に付けたいという意欲も、e宿題の継続を支える一因であることが窺える。

また、「授業用ホームページやメールを通じて教員からの定期的な連絡があったから」という回答も14名(17%)が選択している。筆者は毎週、授業用ホームページやメールを通じて、次回の小テスト範囲やe宿題の範囲を受講生に通知しているが、これが一種のペースメーカーになり、e宿題の継続に一定の役割を果たしたと考えられる。

#### 【Q7の自由記述欄の回答】

Q7は、与えられた選択肢以外の回答もありうるため、自由記述欄を設けた<sup>15)</sup>。ここでは、自由記述で得られた回答をいくつか紹介したい。

### (1) 小テスト対策の効果

「e宿題が小テストの対策として有効に働くから継続できた」というコメントが多数得られた。e宿題を行うことが小テストの準備にもつながるという意識が、e宿題の継続意欲に影響を与えていることが分かる。主なコメントは以下の通りである。

- ・ 小テスト対策として有効に働くから。
- ・ e宿題をやっていたら、小テストでも大体点が取れたから。

### (2) e宿題の位置付け

e宿題を文字通り「宿題」として半強制的に課されることで、やろうという意欲につながったというコメントも複数得られた。eラーニングを単に自習や復習のための教材とするのではなく、「やるべき宿題」と明確に位置付けたことが、受講生の継続意欲に影響を与えたと考えられる。具体的なコメントは以下の通りである。

- ・ 宿題などがなくて全く勉強しないので、出してくれたことで勉強しようと思うようになった。
- ・ 後半くらいから新しく学んだこと+復習で本当に大変でした。でもe宿題がもしなかったとしたら、全く中国語が身に付かないと思ったので、頑張って耐えて取り組みました。
- ・ 耳で聞く（CDを聞く）ことは半分強制されないとなかなか自分でやろうと思えなかったと思います。英語のCDとか開けたことないのかもしれないので…。ちゃんとやると頭に音で残るので、いい復習になりました！
- ・ 「20点を占めるから」でもあるけど、一応宿題でもあったから継続できた。

### (3) e宿題の利便性

e宿題は、場所や時間を問わず手軽に利用できるのが良いという意見も寄せられた。スマートフォンやタブレットPCなど様々な端末で利用でき、通学時間や空き時間を有効に活用できるため、受講生がe宿題にアクセスしやすく、

e宿題を継続できるきっかけになったと考えられる。具体的なコメントは以下の通りである。

- ・ iPhoneのできるから長い通学時間を有効につかえる！
- ・ 登下校中に勉強する習慣がついた。

### (4) e宿題のシステムインターフェース

e宿題のシステムインターフェースに関するコメントも寄せられた。e宿題の画面には、宿題の問題数やトレーニングの進捗状況が表示される。また、すべての問題を3回正解すると、画面中央のバーが赤色に変わり、「宿題完了」と表示される。システムインターフェースがe宿題の継続に一定の効果をあげていることが分かる。具体的なコメントは以下の通りである。

- ・ あと何問で完了、と表示される場所。嬉しいですね。
- ・ 終了した時にバーがすべて赤になるのが気持ちいいから。

### (5) その他のコメント

e宿題を継続できた理由ではないが、以下にいくつか興味深いコメントを紹介しておく。

まず、「e宿題をやることで教科書を見る機会が増えた」というコメントが寄せられた。

- ・ e宿題は、毎回教科書を見てやり、だんだんと同じ単語を解けるようになり、小テストでいい点数をとることができた。
- ・ 何回もコンピュータに打つことで、必然的に教科書を何回も見ることとなり、覚えられた。

次に、e宿題を継続することで、初めて聞く中国語がある程度聞き取れるようになったというコメントがあった。e宿題をやることによって中国語力が向上し、それがさらにe宿題を継続する意欲につながったと考えられる。

- ・ 電車のアナウンスや、テレビのニュースから耳に入る中国語が、文全体の理解はできなくても、単語が聞き取れた。



#### 4.8 e宿題を継続できなかった理由

Q8. 「全回数の半分程度完了できた」、「全回数の四分の一程度しか完了できなかった」、「ほとんど全回完了できなかった」を選択した人にお聞きします。あなたがe宿題を継続できなかった理由は何だと思えますか（複数回答可）。

	法政大学(週2コマ)	他大学(週1コマ)
e宿題の量が多すぎるから	9	3
小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点しか占めないから	2	1
中国語力の向上にあまり興味を感じないから	0	0
e宿題をやるように教員からの積極的な働きかけがなかったから	0	0
パソコンでのリスニング練習に興味を持てないから	1	0
パソコンでの作文練習に興味を持てないから	1	0
もともと外国語のリスニングや作文に興味がないから	0	0

Q8は、e宿題を継続できなかった理由を問う設問である。

全体数は多くないが、相対的にe宿題の量が多すぎることを理由に挙げる受講生が多かった。こうした受講生も負担を過重に感じることなく取り組めるような仕組みを検討する必要がある。

#### 【Q8の自由記述欄の回答】

「家にパソコンがないから」というコメントが得られた。スマートフォンの普及により、パソコンを持っていない受講生が増えつつある。e宿題をスマートフォンでより利用しやすくすることが今後の課題である。

#### 4.9 毎回の小テストがe宿題の継続に与える影響

Q9. もし、小テストを実施せず、期末試験のみで成績評価を行うとしたら、e宿題を継続できると思いますか？

できる	どちらともいえない	できない
18 (19%)	32 (34%)	45 (47%)

Q9は、毎回の小テストがe宿題の継続に与える影響についての設問である。前期終了段階では、ほとんどの受講生がe宿題は中国語力の向上に役立つと感じており、大多数の受講生がe宿題を完了させているにも関わらず、小テストがなければe宿題を継続「できない」、「ど

ちともいえない」が77名(81%)にのぼっている。このことから、e宿題の学習効果以上に、小テストの存在が大きな影響を与えており、3.1で述べた小テストを重視した成績評価方法が、e宿題の継続可能性に大きく寄与していることが確認できる。

#### 4.10 ブレンド型学習の改善に関する提案

Q10. e宿題をより良いものにするために、改善の提案があれば自由に記入してください（細かいことでも構いません）。

Q10は、ブレンド型学習をより良いものにするために、受講生から自由な意見を述べてもらう設問である。今後、ブレンド型学習を改善していくうえで示唆に富むものをいくつか紹介したい。

##### (1) 復習問題に関するコメント

復習問題に関するコメントが寄せられた。復習問題の量が多いことに不満を持つ受講生が多い一方で、復習問題が出題されること自体は比較的好意的に受け取られていることも分かった。新規に出題される問題と復習問題のバランスを考慮しつつ、効果的に復習ができるような出題方法を考えていく必要がある。

- ・ 前の課の復習もでてくるのでとってもいいと思います。
- ・ 復習あるのはいいのですが、あれはすこし大変です…。

##### (2) デジタル教科書・e宿題の改善点に関するコメント

デジタル教科書やe宿題の改善点に関するコメントも寄せられた。とりわけ、動作不良が起きることがあるという意見が多く、この点については、原因を究明し、受講生が快適に利用できる環境を整える必要がある。また、e宿題の解答と教科書の内容に不一致があるとの指摘や、出題範囲を受講生側で設定できるようにしてほしいといった意見も出された。

- ・ ときどきキーボードを押していないのに勝手に正誤判定されてしまったりすることがあったので、少し動作不良があるかなと思いました。
- ・ クリックして音声が出るまで若干のラグがあります（音声が出ないことも有り）。
- ・ たまーに、ほんとたまーに教科書とe宿題の答えが違う時があって、どっちが正しいのか分からないけど、とりあえず、ずっと

正解できなかった。

- ・ 章ごとに問題を解けるようになれば良いと思います（第4章～第9章などまとめてきてしまうため、この課だけ学習することができない）。

##### (3) 授業連絡に関するコメント

授業連絡に関するコメントも寄せられた。筆者は毎週、次回の小テストやe宿題の範囲を受講生に通知しているが、その通知をもっと早めてほしいとの要望が出された。

- ・ 毎回範囲をメールしてくれることがとても助かりました。そのメールを、1日前ではなくて、2日前くらいにしてもらえたらもっと嬉しいです!!

## 5. おわりに

### ——ブレンド型学習の実質化を促すために

最後に、ブレンド型学習の実質化を促すためには、どのような点に留意すればよいかを考えてみたい。

はじめにも述べた通り、ブレンド型学習を実質化するためには、受講生がeラーニングを継続的に行う必要があるが、これを実現するには、受講生がeラーニングに取り組むメリットを実感し、継続意欲が生まれるという好循環を作る必要がある。今回のアンケートからは、次の5つの点に配慮することが重要であることが分かった。

1点目は、適切なeラーニング教材を提供することである。e宿題に取り組むことが小テストの対策にもなったという意見があったが、教科書や授業内容に準拠したeラーニング教材を提供することで、eラーニングに取り組むメリットを実感させることが重要であることが分かる。

2点目は、eラーニングの位置付けを明確にすることである。「(小テストで)20点を占めるからでもあるけど、一応宿題でもあったから継続できた」というコメントからも分かるように、ブレンド型学習ではeラーニングによる自宅学

習が「宿題」であることを明確にすることが必要である。

3点目は、定期試験の結果だけを重視するのではなく、毎回のeラーニングによる自宅学習を重視し、それを評価する仕組みを作ることである。e宿題を継続できた理由の第一位が「小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点を占めるから」であることから分かるように、受講生の毎回の努力の結果を適切に評価し、それを確実に成績に反映することが継続的な学習習慣を身につける上で有効なのである。

4点目は、受講生に対する心理的サポートを行うことである。e宿題を継続できた理由として「授業用ホームページやメールを通じて教員からの定期的な連絡があったから」を選んだ受講生が14名（17%）いることから分かるように、教員からの定期的な働きかけも継続的な学習習慣を支える要素となる。

5点目は、受講生の情報端末や利用環境に配慮したeラーニング教材を提供することである。「iPhoneでできるから長い通学時間を有効につかえる!」というコメントからも分かるように、スマートフォンやタブレットPCの普及によって、eラーニングの情報端末や利用環境は多様化している。受講生がどのような情報端末を使い、どのような利用環境で学習しているかを把握し、それらに適応した教材を提供することが重要である。

ブレンド型学習は、単にeラーニングを導入すれば成立するというものではない。eラーニングが宿題であり、それが成績に反映されることを明確に伝えることで、受講生がeラーニングに取り組むメリットを実感し、継続意欲が生まれるという好循環を作る必要がある。一方、教員の側も、適切なeラーニング教材の提供、受講生に対する心理的サポート、受講生の情報端末や利用環境への配慮が必要である。これらの要素を有機的に連携させることで初めてブレンド型学習という授業形態の実質化が可能になるのである。

## 【注釈】

- 1) コミュニカティブ活動とは、「現実あるいはそれに近いコミュニケーションの目的を果たすために言語を使用するもので、言語のやりとりを、形式だけでなく、文脈のなかで意味を持たせて行う活動」を指す（公益財団法人国際文化フォーラム, 2013, 57）
- 2) 詳しくは宮地〔編著〕2009, 93-95を参照。
- 3) たとえば、高等教育分野における世界最大級の遠隔教育機関である英国オープンユニバーシティにおいても、最終的な平均ドロップアウト率が60%近くに達することが報告されている。（松田・原田, 2007, 51-52）
- 4) ここでの受講生数はいずれも初習者のみの人数を示したものであり、再履修者は除いている。
- 5) 近年、予習型の反転学習が注目されているが、初習外国語の授業においては、新しく学んだ内容を繰り返し練習することで、着実に定着させることも重要であることから、筆者の担当する授業では復習型のeラーニングに重点をおいている。
- 6) 小テストで使用している解答用紙は、資料1を参照。
- 7) 授業内にe宿題の一部を行わせることで、自宅学習を促進するメリットもある。
- 8) ただし、「復習問題」は1回正解するのみで「完了」となる。
- 9) 4つのトレーニングをすべて完了できた受講生の割合とは、前期終了段階で4つのトレーニングをすべて完了した受講生数を全受講生数で割ったものである。
- 10) 当該大学では、最上位評価（法政大学における「A+」）は、受講生全体の5%以下にしなければならないという規定があるため、小テストの平均点のみで成績評価を行った場合、最上位評価を与える受講生を絞りきれない可能性がある。このため、期末試験も併せて実施した。

- 11) レイアウトやデザインは、実際に受講生に配布したものとは一部異なる。また、このアンケートの回答内容は、成績には一切影響しない旨を受講生に伝えている。
- 12) パーセンテージは小数点以下を四捨五入して算出している。以下の設問も同様である。
- 13) Q6は、e宿題を毎回継続的に行うことができたかどうかを受講生に自己評価させる設問である。前述の前期終了段階での達成率は、必ずしも毎回継続的にe宿題に取り組んでいたことを示すものではなく、パーセンテージも異なる。
- 14) この設問は、複数回答可であるため、各回答にパーセンテージは記載していない。これは、Q8も同様である。
- 15) Q7、Q8、Q10の自由記述欄で得られた回答は、全て資料3に記載している。基本的には受講生のコメントをそのまま記載しているが、明らかな誤字・脱字と思われる箇所については、筆者が適宜修正を加えている。

#### 【参考文献】

- 1) 公益財団法人国際文化フォーラム(2013)『外国語教育のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』. 東京: 公益財団法人国際文化フォーラム.
- 2) 松田岳士・原田満里子(2007)『eラーニングのためのメンタリング 学習者支援の実践』. 東京: 東京電機大学出版局.
- 3) 宮地功〔編著〕(2009)『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』. 東京: 共立出版.



【資料１：小テスト用紙】

年	月	日	時間	学部		学科		年 組	得点
科目名		教員名		学籍番号					
				氏名					

1. 次に関く中国語の単語をピンインで書き取りなさい。(5点×4=20点)

1	(ピンイン)	2	(ピンイン)
3	(ピンイン)	4	(ピンイン)

2. 次に関く中国語の文を漢字で書き取りなさい。(15点×2=30点)

1	(漢字)
2	(漢字)

3. 次に関く日本語の文を漢字で中国語に訳しなさい。(15点×2=30点)

1	(漢字)
2	(漢字)

4. e宿題の実施状況 (5点×4=20点)

単語の聞き取り	単語の中国語訳	短文の聞き取り	短文の中国語訳	計

【資料２：アンケート用紙】

**中国語ブレンド型学習に関するアンケート**

この授業では、ブレンド型学習（教室授業と自宅学習を組み合わせた学習方法）を実施してきました。このアンケートは、ブレンド型学習をより良いものにするために行う調査です。成績とは一切関係ありません。また、学生の皆さんとの連絡を確実なものにするため、改めてメールアドレスを記入していただきますが、授業以外の目的でこれを利用することはありませんので、ご安心ください。

学籍番号	氏名	メールアドレス

Q1. あなたは、これまでの学習を通じて、中国語に魅力を感じるようになりましたか？  
はい                      どちらともいえない                      いいえ

Q2. あなたは、これまでの学習を通じて、中国語を身に付けられると思うようになりましたか？  
はい                      どちらともいえない                      いいえ

Q3. e宿題は、あなたの中国語力の向上に役立つと思いますか？  
大いに役立つ      ある程度役立つ      どちらともいえない      あまり役に立たない      全く役に立たない

Q4. e宿題には毎回どれくらいの時間がかかりましたか？  
(                      ) 時間

Q5. e宿題の量についてどう思いますか？  
多すぎる      やや多い      ちょうどいい      やや少ない      少なすぎる

Q6. あなたは、今までのe宿題（4種類のトレーニング）をどの程度完了することができましたか？  
・ ほぼ毎回完了できた  
・ 全回数の四分の三程度完了できた  
・ 全回数の半分程度完了できた  
・ 全回数の四分の一程度しか完了できなかった  
・ ほとんど全回完了できなかった

【資料２：アンケート用紙】

Q7. 「ほぼ毎回完了できた」、「全回数の四分の三程度完了できた」を選択した人にお聞きします。あなたがe宿題を継続できた理由は何だと思われますか（複数回答可）。  
・ e宿題の量が適切だから  
・ 小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点を占めるから  
・ 毎回授業の内容を復習することで、中国語力を向上させたいから  
・ 授業用ホームページやメールを通じて教員からの定期的な連絡があったから  
・ パソコンでのリスニング練習に興味を持てるから  
・ パソコンでの作文練習に興味を持てるから  
・ もともと外国語のリスニングや作文に興味があるから  
上記以外で、e宿題の継続に役立ったと思うことがあれば、自由に記入してください（細かいことでも構いません）。

Q8. 「全回数の半分程度完了できた」、「全回数の四分の一程度しか完了できなかった」、「ほとんど全回完了できなかった」を選択した人にお聞きします。あなたがe宿題を継続できなかった理由は何だと思われますか（複数回答可）。  
・ e宿題の量が多すぎるから  
・ 小テストのうち、e宿題の実施状況が100点満点中20点しか占めないから  
・ 中国語力の向上にあまり興味を感じないから  
・ e宿題をやるように教員からの積極的な働きかけがなかったから  
・ パソコンでのリスニング練習に興味を持てないから  
・ パソコンでの作文練習に興味を持てないから  
・ もともと外国語のリスニングや作文に興味がないから  
上記以外で、e宿題を継続できなかった理由があれば、自由に記入してください（細かいことでも構いません）。

Q9. もし、小テストを実施せず、期末試験のみで成績評価を行うとしたら、e宿題を継続できると思いますか？  
できる                      どちらともいえない                      できない

Q10. e宿題をより良いものにするために、改善の提案があれば自由に記入してください（細かいことでも構いません）。

### 【資料3：自由記述欄のコメント】

#### Q7の自由記述欄のコメント

- ・ 3回くり返すのは大変だけど中国語に慣れた。
- ・ ピンインやリスニングがきたえられたと思う。
- ・ iPhoneでできるから長い通学時間を有効につかえる！
- ・ 登下校中に勉強する習慣がついた。
- ・ 宿題などがないと全く勉強しないので、出してくれたことで勉強しようと思うようになった。
- ・ 音で覚えられるようになった。
- ・ 量があいので覚えるのは早かった。大変だけどこれからも継続してほしい。
- ・ やる気
- ・ ウチのパソコンを買いかえたことで、ネットが快適になったため。
- ・ 単位がもらえる
- ・ 授業のテストの勉強が楽になった。
- ・ 授業後にe宿題をやることでしっかり復習ができてより覚えられる。小テストの勉強にもなる。
- ・ e宿題は、毎回教科書を見てやり、だんだんと同じ単語を解けるようになり、小テストでいい点数をとることができた。
- ・ 終了した時にバーがすべて赤になるのが気持ち良いから。
- ・ 後半くらいから新しく学んだこと+復習で本当に大変でした。でもe宿題がもしなかったとしたら、全く中国語が身に付かないと思ったので、頑張って耐えて取り組みました。
- ・ 小テストがあること、また先生からのe宿題のメールがくること。
- ・ 電車のアナウンスや、テレビのニュースから耳に入る中国語が、文全体の理解はできなくても、単語が聞き取れた。
- ・ e宿題のおかげでピンインのテストがよくできるようになった。
- ・ 宿題の中から次の小テストの問題が出るので、しっかりやれば点数がとれたから。
- ・ 「20点を占めるから」でもあるけど、一応宿題でもあったから継続できた。
- ・ 小テスト対策として有効に働くから。
- ・ 小テストの勉強がスムーズにできた
- ・ e宿題をやっていれば、小テストでも大体点が取れたから。
- ・ あと何問で完了、と表示される場所。嬉しいです。
- ・ 時間はかかるけどでてくる問題が結構同じ問題を繰り返していたのでやっていくうちにスピード（ピンイン入力）が上がっていったのが良かったです。
- ・ 前日の範囲を知らせるメールが来ることで、忘れずにすることができた。
- ・ 毎回の小テストのための勉強に役立った。
- ・ e宿題をやると、小テストの勉強も楽になるから。
- ・ 耳で聞く（CDを聞く）ことは半分強制されないとなかなか自分でやろうと思えなかったと思います。英語のCDとか開けたことないのもあるくらいなので…。ちゃんとやると頭に音で残るので、いい復習になりました！
- ・ 何回もコンピュータに打つことで、必然的に教科書を何回も見ることとなり、覚えられた。

## 【資料3：自由記述欄のコメント】

## Q8の自由記述欄のコメント

- ・ 自分の甘さ
- ・ 復習に入ったとき全然解けなかった。発音をききとれないので復習で解けなかった。3回はきつい。
- ・ 復習が多すぎるから
- ・ パソコンが苦手、手書きのほうが覚えられる
- ・ 家にパソコンがないから
- ・ 1回できないとどんどん貯って行って、いつまでたっても終わらないから。
- ・ 説明の紙をあまり良く読んでいなかったなので、やり方が分からなかった。

## Q10の自由記述欄のコメント

- ・ たまーに、ほんとたまーに教科書とe宿題の答えが違う時があって、どっちが正しいのかわからないけど、とりあえず、ずっと正解できなかった。
- ・ クリックして音声が出るまで若干のラグがあります。(音声が出ないことも有り)。それ以外には問題ははありません。
- ・ たまに、システムエラーが起きます。反応しないことがある。
- ・ とくどきキーボードを押していないのに勝手に正誤判定されてしまったりすることがあったので、少し動作不良があるかなと思いました。
- ・ 3回は多いです。自分は宿題をやったあとに書かないと覚えられないタイプだったので、大変でした。
- ・ 復習あるのはいいのですが、あれはすこし大変です…。
- ・ 復習をもう少しへらしてほしい。
- ・ 量はすこしへらす。
- ・ 復習の量が多いです…。
- ・ 前の課の復習もでてくるのでとってもいいと思います。授業もやりやすいです!!
- ・ いつもの量+復習が入ってくると多いなと感じます。普段なら良いのですが、テスト期間はきつかったです。
- ・ 3回正解しなきゃなのが辛い。でも、e宿題のおかげでピンインとか文法とかしっかり覚えられる!!
- ・ 全部ピンインで解答するのが大変だった。パソコンでの宿題より紙でだされるほうが解答しやすいし、溜め込むこともないと思う。
- ・ 毎回範囲をメールしてくれることがとても助かりました。そのメールを、1日前ではなくて、2日前くらいにしてもらえたらもっと嬉しいです!!
- ・ 章ごとに問題を解けるようになれば良いと思います。(第4章～第9章などまとめてできしてしまうため、この課だけ学習することができない)
- ・ 発音がゆっくりしたスピードで聞けたら良いです
- ・ 授業が非常にわかりやすかった。ゆえにe宿題など不要。
- ・ 小テストを後期も毎回実施してもらえると嬉しいです
- ・ 全体的に良かったと思う。復習のペースが少し遅い気もしました。
- ・ 先生の授業楽しいです!!中国語が好きになりました!!ありがとうございます!!
- ・ 今のままでちょうど良い
- ・ 今のままで大丈夫だと思います!
- ・ このままがいいです!
- ・ ありがとうございます。頑張ります(笑)
- ・ ないです。
- ・ 特になし。